

第3回「文化芸術による復興推進コンソーシアム」運営委員会 議事要旨

1. 日時 平成25年2月25日(月) 午後14時00分～午後15時30分

2. 会場 東京文化会館 4階 中会議室1

3. 出席者 運営委員:

本杉 省三 運営委員長	小松 弥生 運営副委員長
荻原 康子 委員	増渕 巖 (関裕行委員代理)
田澤 祐一 委員	畑中 裕良 委員
半田 昌之 委員	松本 辰明 委員

その他の出席者:

大木 高仁 (参与・文化庁文化部長)	舟橋 徹 (文化庁文化部芸術文化課長)
渡辺 一雄 (コンソーシアム アドバイザー)	大和 滋 (事務局 次長)

4. 議事

開会

- ・本杉議長より開会の宣言があり、会議に先立ち事務局担当の松本委員から委員現員数9名のところ、渡辺聡委員が欠席であるが、会議は有効に成立していること、また、関裕行委員の代理として独立行政法人日本芸術文化振興会の増渕総務課長が出席しているとの報告があった。

(1) コンソーシアムの活動経過報告について」

- ・事務局より各事業の活動経過の概要が資料により報告された後、下記の事業についてはその進捗状況、実施上の課題等について、詳細な報告が行われた。

① 復興推進員連絡会議

- ・事務局より、今年度の復興推進員連絡会議についての総括が報告された。
- ・地方組織との議論が深めきれない、出されたアイデアや考えをコンソーシアムとして、どう支援していくか、持続性、継続性のある支援がどこまで実施可能か等が課題として挙げられた。
- ・大和事務局次長より、震災後2年を経て、今後支援が必要な地域が限定されてきている。また避難者のアイデンティティ構築や、地域住民や避難者同士での新たなコミュニティの創造も課題であり、その中で文化は何ができるかという観点が重要であることが報告された。

② 調査研究会、報告書

- ・事務局より、調査研究会の審議内容および報告書の経過について報告された。
- ・調査研究報告書は、A4サイズ100ページ程度の冊子を2,000部作成予定である。
- ・内容は、文化芸術復興推進の活動事例を具体的に紹介し、各地域で活躍する人々に有益な情報として還元することを目的とする。また、復興推進員からの情報をできるだけ取り入れる。
- ・大木参与より、さまざまなビジョンや展開を見据えた、実用的で具体的な事例や今後につながるような内容の報告書にしてほしいとの意見が出された。

③ シンポジウム

- ・「今こそ、文化芸術の出番です。各地からの報告をもとに、文化芸術による復興推進のあり方を考える。」をテーマに、3月15日に国立新美術館講堂でシンポジウムを開催する。
- ・パネリストは復興推進員や調査研究員からも選出し、当日は運営委員、推進委員、一般も参加した全員参加型の意見交換の場としたい。司会は大杉運営委員長が行う。

④ ホームページ

- ・事務局より、「ホームページ」の現状と今後の方針について説明があった。
- ・「フォーラム」では、文化芸術による復興推進に係る方々からの声をブログ形式で掲載し、「レポート」

では、調査研究報告をはじめ、各地からの活動報告を掲載し、「お役立ち情報」では被災各地でのイベントや助成情報等を中心に紹介し、徐々に充実してきているとの報告が行われた。

- ・本杉議長より、情報の収集方法について質問があり、事務局から、関係者、団体等から提供される場合と、事務局で調査集計して掲載する場合の両方があると回答された。
- ・大木参与より、ホームページを見た人がコンソーシアムへ意見を寄せたい場合についての質問があり、事務局からは、メールが基本だが電話、FAX、来訪等にも対応していると回答された。

⑤ パンフレット

- ・新しく発行する、コンソーシアムの活動紹介パンフレットについての報告がなされた。
- ・ロゴマークを使用するとともに、コンソーシアムのコンセプトについても、新しい要素を入れているとの報告があった。

⑥ 賛同団体(者)登録

- ・「賛同団体(者)登録」については、2月25日現在、団体 203、個人 80、合計 283 である。
- ・大木参与より、被災地からの要望と支援の有機的なマッチングのため、賛同登録団体に対して積極的にリサーチし、支援の手立てを働きかけてほしいとの要望が出され、事務局からは、コンソーシアムは“つなぐ”ことが使命であり、具体的にアクションを起こしていきたいとの回答があった。
- ・荻原委員より、企業メセナ協議会の会員企業から、賛同しても何をすればいいのか不明瞭だという反応があるとの発言があり、シンポジウムがコンソーシアムの活動にについて理解を得るよい機会となればよいとの意見が出された。

⑦ その他

- ・宮城県の大澤隆夫復興推進員より、震災後に閉校が決まった東北の小・中学校の校歌をオーケストラ演奏でCD化するアーカイブプロジェクトについての説明が行われた。

(2) コンソーシアムの今後の活動について

- ・半田委員より、コンソーシアムの名前をイベント等を通して広げていくことが重要であり、外部に展開していく際には、関係団体等にとってもメリットとなるような活動をしていくべきとの意見がだされた。
- ・小松副委員長より、各々の活動が回っていく中で、コンソーシアムとして活動出来る材料はいくつもあり、その中からみんなが1つずつ拾い上げていくことが重要であるとの意見が出された。
- ・畑中委員より、被災地の方の意見に真摯に耳を傾け、コンソーシアムが組織として、どういうフォローができるのかなどを考えていくシステムを構築していきたいとの意見が出された。
- ・荻原委員より、各地域で、自立していこうとしている活動を自由な制度設計の中で支援できるような枠組みをつくっていけるかというところを話し合っていく必要があるとの意見が出された。
- ・田澤委員よりテーマをきちんと整理し、芸術団体には何を求めるかといった具体案を話し合うべきだとの意見が出された。
- ・渡辺アドバイザーより、平成 25 年度のコンソーシアムの組織構成の中で実際に実行できる体制強化に向けて提案がなされ、小松委員からは、事務局内で行っている企画会議(定例会議)にもっと参加団体の皆さんにも入っていただきたいとの意見が出された。また、本杉委員長からは、実のあるコンソーシアムにしていくためには、ここだけの力ではなく皆さんの協力を得ながら、ぜひ地域の人と一緒に前進させていくということが必要だとのまとめがあった。

(3) その他

「来年度の運営委員会」について

事務局より来年度の運営委員会は委託事業開始の平成 25 年 7 月頃を予定しており、各委員の日程を調整し、確定したいとの説明があった。

以上